庭での事

夜の書斎の中で僕は夕方の庭での事を検証してゐる
池の蓮の葉の上に亀がよぢ登り
木立の下の暗闇に兎が胸をうづめてゐた
「もう誰もゐなくなつたのね」
「二人きりだね」
木立のあひだの道を辿つた
突然　切り裂くやうな白日の割れ目
両側の木の葉の大きい黒いギザギザ
「好きだよ　愛してゐる」
「あたくしだつて同じ思ひ」
ささやきあつて　見つめあつて　手をとりあつて
無人の庭を歩いたのだつたが
僕の検証によると　あれはをかしい
兎の目は切り絵のやうにするどかつた
鯉が池を飛びはねることもなかった
庭の管理事務所では僕たちのすべての行動がわかつてゐたのではないだらうか
見えない光線の交錯はちくいち僕たちの姿をつかまへ
随所の集音マイクはすべての会話と音を捉へ
僕たち以上に熱つぽい僕たちを捕捉してゐたのではないだらうか
ああ　お前
しかし安心してゐてもいい
僕の目に映つたうすくらがりの中のお前の目
かすかにふるへる胸のときめき
近代技術がどんなに進んでも出来ないことはある
お前と僕との心の約束
また行かう